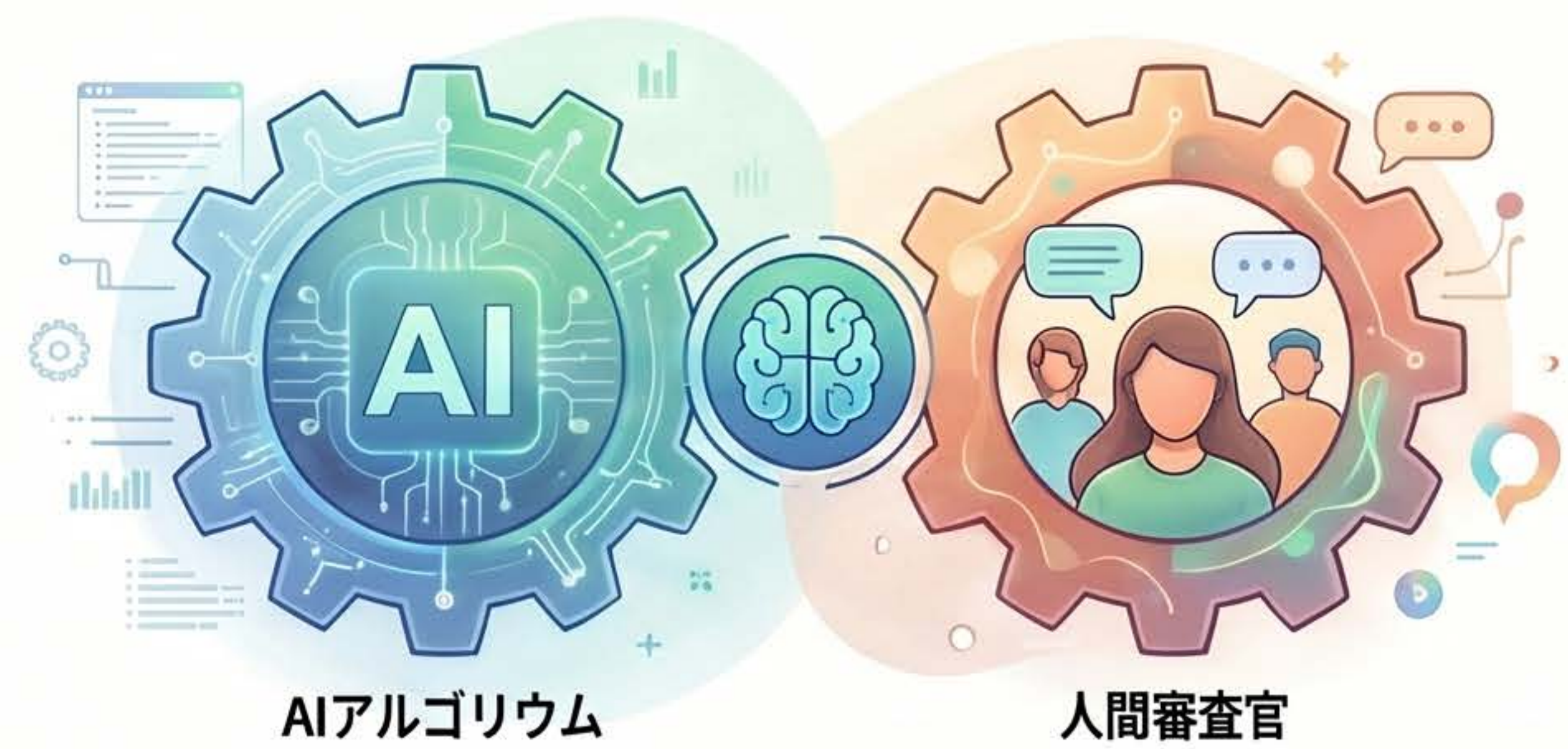
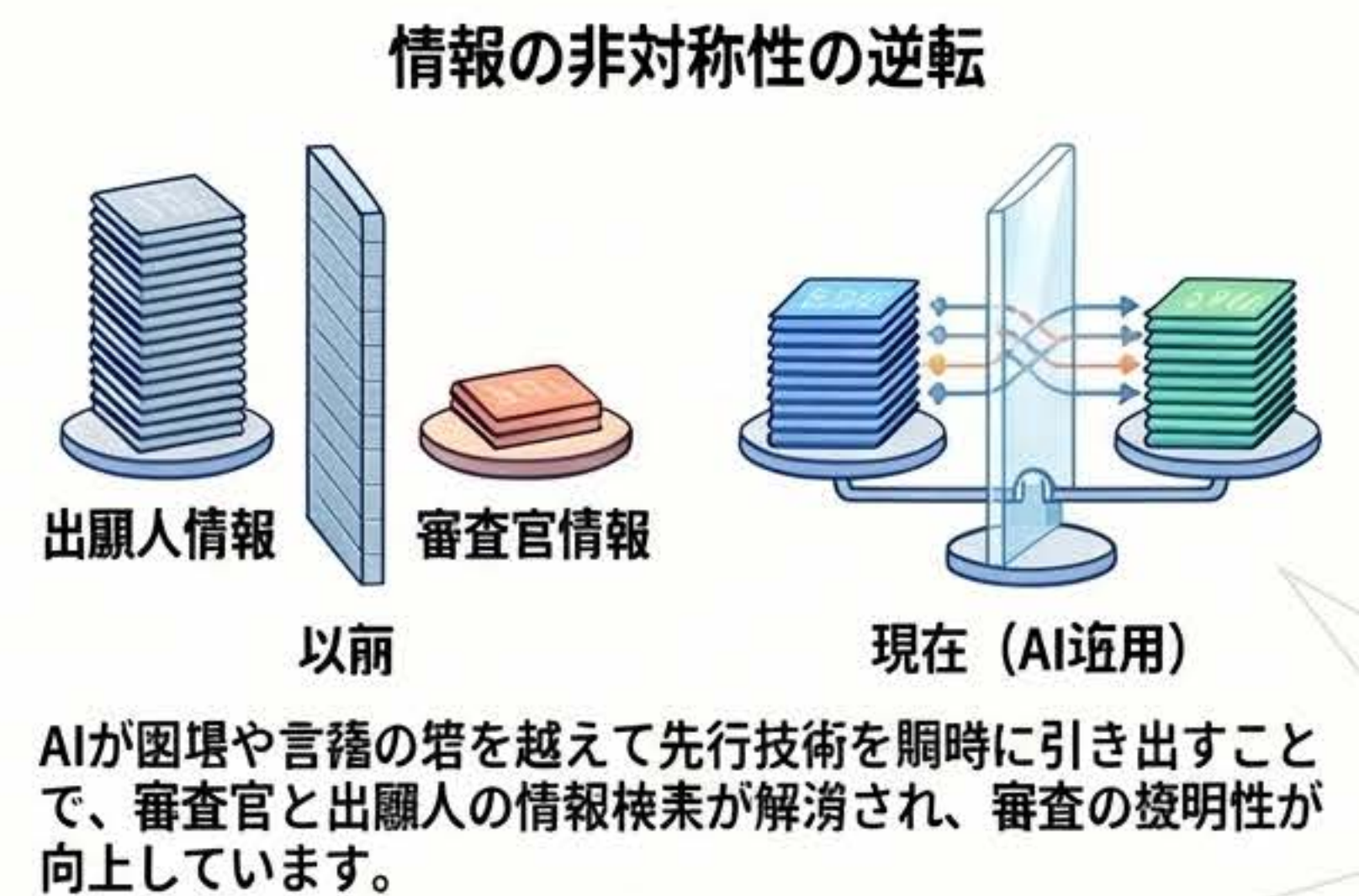
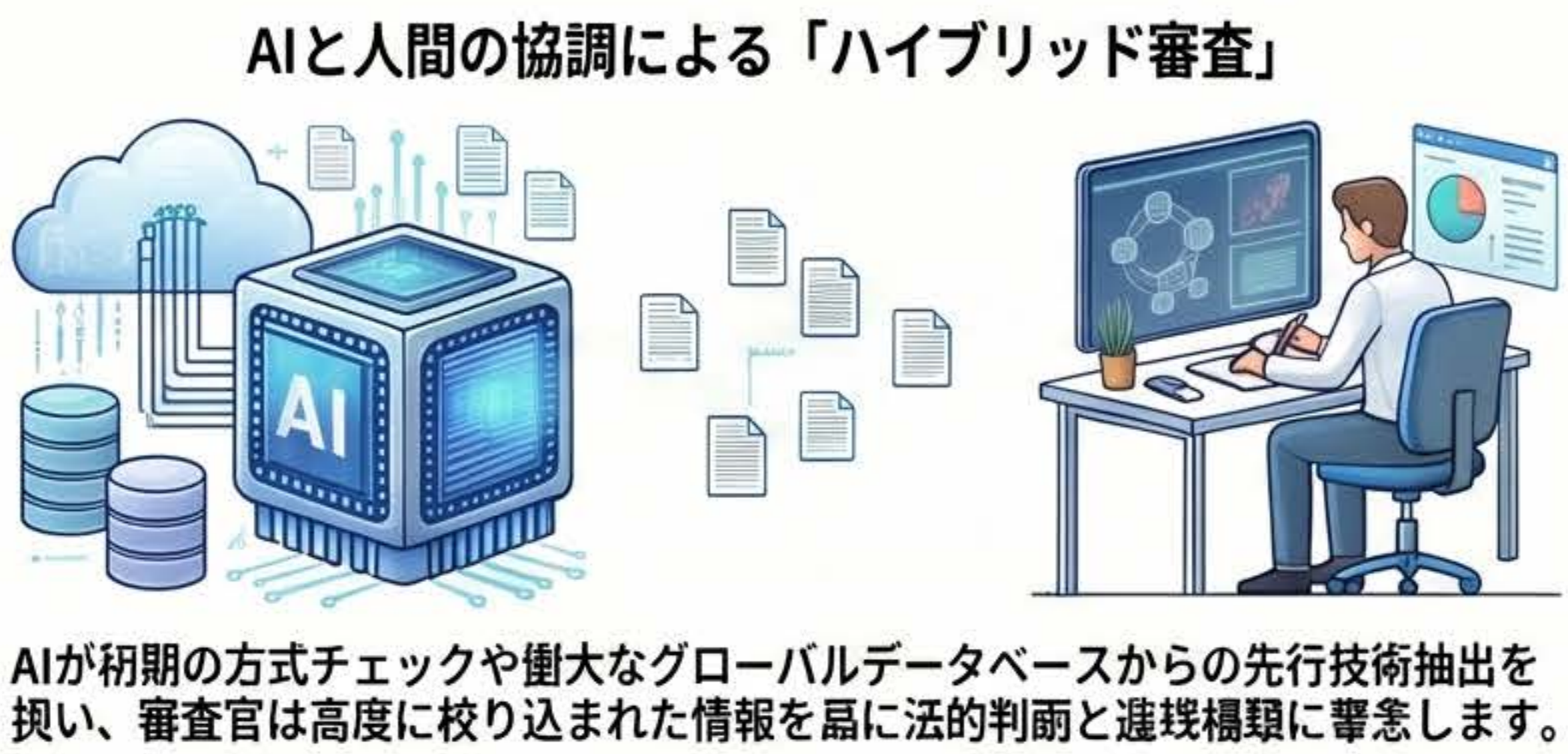


世界五大特許庁（IP5）における特許審査AI活用の最前線：ハイブリッド審査時代の幕開け



次世代型ハイブリッド特許審査のワークフロー



IP5各庁の主要なAI施策と成果

日本（JPO）：LLMによる要約と特定精度の検証

Cloud 3.5 Sonnetを用いた特許文獻的により、審査官が正解文獻を特定できる操率は66%に達しました。

主要ツール： LLM PoC (要約・構造化)
特筆すべき成果： 文獻特定率68%

米国（USPTO）：自動検索パイロット「ASAP!」

審査開始前にAIが自動検索を行い、出願人に関連文獻リスト（ASRH）を提示。これにより、早期の構想期間短縮や戦略的提案が可能になります。

主要ツール： ASAP!, DesignVision
特筆すべき成果： 異業審査の負担28%減、期間14ヶ月へ短縮

欧州（EPO）：人間中心のAIガバナンス

LIP（対話型AI）の導入や、口頭審理でのAI自動観望作成を進める一方、審判的な注記責任は常に人間が言う原則を堅持しています。

主要ツール： LIP（対話型AI）、AI自動観望
特筆すべき成果： 厳格なデータ保護と法的根拠へのリンク

中国（CNIPA）：世界最速レベルの審査期間

マルチモーダルAIの導入により、発明特許の平均審査期間を20ヶ月から10.5ヶ月へ短縮し、審査精度95.2%を実現しました。

主要ツール： 智能特許審査システム
特筆すべき成果： 発明特許審査15.5ヶ月（世界最速レベル）

韓国（KIPO）：スタートアップ向け「超高速審査」

AI・バイオ分野の企業を対象に、通常10ヶ月かかる審査をわずか1ヶ月で完了させる超高速審査トラックを創設しました。

主要ツール： AI審査方式審査、超高速トラック
特筆すべき成果： スタートアップ向け一次審査1ヶ月

AI審査時代を生き抜くための出願戦略

AIの「死角」を意識した用語選択
抽象的な汎用用語を避け、アルゴリズムが「特定のハードウェアとどう運用し、何を解決するか」を具体的に記述することで、AIによる誤った引用との混同を防ぎます。

多層的なクレーム構造 (Layered Claims)
AI検索での相対的扱いとした広範な独立クレームに加え、緻密な技術的進歩を定めた多層的な従属クレームを配置し、最終的な技術的価値を確保します。

AI駆動型オーディットによる収益化
AI審査を勝ち抜いて登録された特許は「脆弱化されにくい」という高い信頼性を持ち、ライセンス交渉や売却において相対的価値が高まります。